

授業作り	重 点	自分の考えを豊かに表現できる力を身に付けさせる。
環境作り		個別最適化を進めるICT機器の効果的な活用。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ひらがな、カタカナ、漢字を正確に書いたり読んだりできるようにする。 ・物語文や説明文の内容の大体をとらえることができるようにする。 ・たしざんやひきざんの計算が正確にできる。 ・量感を感じ取ることができる力を高める。	①筆順や字形の指導の継続 ②意図的な文を書く機会の導入 ③積極的な読書活動の取組 ④数の構成の反復学習 ⑤学習問題と日常の場面を意図的につなげる機会の確保 ⑥ICT機器を活用した練習問題の取組
2 学 年		・文章を読んで内容の大体をとらえ、分かったことや考えたことを友達と伝え合えるようにする。 ・自分の経験や感想を簡単な文章で表現することができるようにする。 ・新出漢字を繰り返し読んだり書いたりすることで定着を図る。 ・たし算、ひき算、かけ算の意味を理解しながら確実に計算することができるようにする。	①音読カードを活用しての練習 ②継続的な日記、作文指導 ③漢字小テストの実施と反復練習 ④学習状況の把握と必要に応じた個別指導 ⑤ICT機器を活用した練習問題の取組 ⑥読書時間の確保
3 学 年	・自分の考えを文章で書き表せるようになるために、文章を書くことを習慣付ける手だてが必要である。 ・算数では、単元の前提となる基本事項にさかのぼった、個別指導が必要である。	・自分の考えを整理して、順序立てながら文章に書き表す力を高める。 ・既習事項をどのように活用できそうかを共有した上で、課題に取り組むことができるようにする。 ・練習問題を行うことで、既習事項を活用する時間を確保し、習熟を図る。	①自分の考えや意見を文章化する学習活動の設定 ②文型の提示 ③課題解決に向けて見通しをもたせる ④学習状況の把握と個に応じた指導 ⑤練習時間の確保 ⑥ICT機器を活用した練習問題の取組
4 学 年	・書くことは区の平均を下回ることから、自分の考えを文章で書き表す活動を日頃から行っていく必要がある。 ・文章の読み取りができるように、多くの語彙を獲得することが必要である。 ・身に付けた知識や技能を活用する力の向上が必要である。	・自分の考えを表現する機会を多く設定する。 ・登場人物の気持ちや筆者の主張を読み取るよう、文章表現に注目させたり、多くの文章に触れたりして、語彙の獲得や人物像の読み取り方等の定着を図る。 ・タブレット端末を活用し、練習問題を行うことで既習事項の活用や習熟を図る。	①文型の提示 ②タブレット端末の活用 ③読書等の環境整備と読書時間の確保 ④新出表現や言葉に着目した文章の読解 ⑤練習時間の確保、および家庭学習の家庭への啓発
5 学 年	・心情面の読み取り、漢字の書き、言語文化の問題に課題があるため、既習内容の徹底指導を行っていくことが必要である。	・文章の書き取りの工夫に対して、肯定割合が低いことから、文章の推敲や日々、文を書くことに親しむような工夫を図る。 ・個に応じた練習問題を行うことで既習事項を	①基本事項の定着度に応じた個別の課題への取組 ②新出表現や言葉に着目させた文章の読み取り

	・いずれの教科、どの領域も区の平均を下回っている。基本的事項にさかのぼった個別指導が必要である。	活用する時間を確保し、習熟を図る。	③ICT 機器（主にドリルパーク）の活用 ④家庭学習の具体的な取り組み方の指導
6 学 年	・国語の「書くこと」について、児童の多くが未定着である。集団指導を丁寧に行い、自分の考えを論理的に組み立て、表現する力の向上が必要である。 ・算数では「数と計算」領域において、基礎的な計算力を身に付けさせる。	・文章全体の構成や展開を考え、事実と感想、意見とを区別して文章を書く力を身に付けさせる。また、並行読書を活用して語彙力の向上を図る。 ・数量の概念を把握させ、何が問われているのか、単位は何であるか考えさせた上で立式に導く力を高める。	①構成メモ等活用した、客観的な事実の書き方、文末表現等の指導 ②並行読書環境の整備 ③少人数指導における実態に合わせた基礎的な問題と発展的問題の取組 ④デジタルドリルの活用